

仁川小だより



令和7(2025)年6月 30 日

「言葉でつながる心と心」

校長 衣笠 裕美

梅雨空の中に紫陽花が鮮やかな色彩を見せ始める中、1年生が育てているアサガオが本葉を増やし、ツルが空に向かってぐんぐん伸びています。先日は、お忙しい中引き取り下校訓練に多数ご参加いただき、ありがとうございました。

早いもので新学期が始まって3か月が過ぎ、1学期のまとめの時期を迎えました。子どもたちは様々な体験を通して、協力することや見通しをもって最後までやり抜くことの大切さを学び、成長している姿を頼もしく思います。

7月10日(木)から個人懇談会が始まります。1学期のお子様の様子を学校とご家庭の間で共有し、今後の成長につなげていく場になっていけばと願っております。

「こだまでしょうか」

金子みすゞ

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていう。
「ばか」っていうと
「ばか」っていう。
「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていう。
そうして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。
こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。

詩人・金子みすゞさんの『こだまでしょうか』という詩を紹介します。この詩は、東日本大震災のときにCMで繰り返し流され、被災地や日本中に寄り添うメッセージとなりました。多くの人が苦しい状況にあった中で、言葉には気持ちがこもり、それが相手からも返ってくる——まさに「こだま」のように響き合うものだとして教えてくれました。この詩は、ひとりではないという勇気と希望を届け、人と人との絆や支え合いの大切さを改めて気づかせてくれたのです。それと同時に、相手に向けるやさしい言葉や思いやりがどんなに大きな力となり、心と心をつなぐきっかけになるかを教えてくれています。

さて、校内では毎朝、あいさつの声が心地よく響き、子どもたちの気持ちがつながっています。はじめは遠慮がちだった声も、今では活気にあふれ、お互いに気持ちを通わせる大切なコミュニケーションとなりました。その声はまさに「こだま」のように響き合い、温かさを広げています。この1学期を通して、あいさつが学校中に広がり響き合っていることは、とても心強く、うれしいことです。これからも言葉の持つ力を信じ、やさしい言葉があふれる学校となるよう、一層努めてまいります。



引き取り訓練



運動会



1年タブレット開き